

令和5年度

取扱注意

授業改善推進プラン【小学校】

- ①令和5年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和5年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科(様式3)

東京都北区立滝野川小学校

[様式1]

令和5年度 北区立小学校学力向上を図るための全体計画

東京都北区立滝野川小学校

令和5年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語	全ての学年で全国及び北区の平均並びに目標値を上回っている。さらに「書く力」を高めていくために、指定された長さで文章を書くことや自分の意見と事実を区別して書くことを学習活動に重点的に取り入れる。
社会	全ての学年で全国及び北区の平均並びに目標値を上回っている。学習した内容をしっかりと覚えるとともに、身に付いた知識と資料を関連付けて考える学習活動を重点的に取り入れる。また、正答結果が分散しているため、全ての児童に基礎・基本が身に付くよう個別に支援・指導を行う。
算数	全ての学年で全国及び北区の平均並びに目標値を上回っている。分数、小数、概数の大きさの理解することや図形について性質を踏まえて自分の考えを文章で表現することを学習活動に重点的に取り入れる。
理科	全ての学年で全国及び北区の平均並びに目標値を上回っている。植物や昆虫などの生き物について理解することや実験結果から仮説の検証を行うことを学習活動に重点的に取り入れる。

本校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、国際的視野に立ち、社会の変化に主体的に対応できる創造的な知性と豊かな感性を備えた、心身ともに健康で強くたくましく生きる児童を育成する。

- 元気で…心身ともに健康で、情操豊かな子ども
- 仲良く…きまりを守り、互いに助け合う子ども
- 根気よく…よく考えて、最後までやりぬく子ども

本校が児童に育成したい力

	問題を見付け	自分の考えや思いをもつ	共に学び合う
低学年	問題を見付けようとする。	自分の考えをもてる。	互いの思いを受け止められる。
中学年	問題を見付け、解決しようとする。	自分の考えを伝えられる。	互いの考えを認め合い、学び合える。
高学年	問題を見付け、すすんで解決しようとする。	自分の考えを分かりやすく表現できる	友達と関わり合いながら考えを深められる。
特別支援学級(4組)	見通しをもって取り組もうとする。	自分の思いをもてる。	友達の話聞いて、考えられる。

学力向上にかかわる経営方針

- ・児童の学びに火を点ける導入の工夫
- ・児童の興味や疑問を生かした探究学習
- ・意図した学習を効果的に生み出す単元構成
- ・指導と評価の一体化によるねらいの達成
- ・毎週金曜日の朝の時間のNIEたいむの実施
- ・日常的にICT機器を活用した授業の展開
- ・学力パワーアップ講師、学級経営支援員、理科支援員等を活用した個に応じた支援
- ・飛鳥中サブファミリーによる授業交流を通じた小中一貫教育の推進

校内における学力向上推進体制

各教科については、北区基礎・基本調査の結果分析と小中一貫カリキュラムをもとに、各学年で学習計画を立てて進めていく。その中で、特に今年度の校内研究のテーマに掲げているNIEへの取り組みに関しては、学年だけでなく、低・中・高学年・特別支援(4組)のそれぞれの分科会でも情報を交換し、校内研究会を通して全校で共有していく。また、主体的・対話的で深い学びを実現し学力を高める。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○児童の問題解決能力の向上を目指す研究実践を定着させる。 ○授業において新聞を積極的に活用した学習を行う。 ○ICTを活用した授業実践により、個別最適な学びにつなげていく。 ○「NIEたいむ」をより充実させ、新聞に触れる時間を継続的に設定し、読む能力、書く能力の育成を図る。 ○学力調査等における各教科の重点内容について理解を図り、教材開発を進める。 ○東京ベーシック・ドリルの診断シートの結果を分析し、児童に必要な支援を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の基礎・基本の徹底を図るとともに児童の実態に合わせ、発展的な学習を行う。 ○毎週金曜日の朝の時間に「NIEたいむ」を設定し、社会事象に対する興味・関心を喚起し、多面的・多角的に思考・判断し、論理的に表現する能力を伸長する。 ○少人数指導による習熟度別学習や個別指導により、個別最適な学びにつなげる。 ○「学力フォローアップ事業」によるフォローアップ講師を活用し、基礎基本の定着を図り、学習への意欲につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決型の学習を主眼としたNIE活用により、校内研究として取り組み、多岐に渡る学習活動や広い視野での探究活動の展開の仕方を授業に生かす。 ○毎週1回行う「NIEたいむ」をはじめ、NIEの日常化を図り、新聞の特性を生かした授業展開を研究する。 ○「きたコン」の活用をテーマに研修等を行い、一人一人の実践を共有し、ICTを活用した指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国、都や区の学習状況等の調査結果を分析し、児童や学級の実態に応じた授業の改善につなげる。 ○児童が学習を振り返り、自己評価できる時間を設定し、自己評価能力を高めていく。 ○児童が互いに評価し合う場面を設定し、相互評価能力を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サブファミリー校3校(飛鳥中、西ヶ原小)の連携事業である「基礎学力向上分科会」に積極的にかかわる。 ○スクールコーディネーターと連携・協力して、人材確保に努める。 ○教育資源(科学館、小・中学校、高等学校、大学、研究機関、企業等)を活用し、教育活動につなげる。 ○学校ホームページを積極的に更新し、学校での学習の様子を保護者をはじめ地域の方々に知らせていく。

[様式2]

令和5年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立滝野川小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。ただし、「しらべたことをはっぴょうする」「文章を書く」については、目標値も低い、平均正答率が70%を下回っている。	全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は90%、「思考・判断・表現」は80%を上回り、「主体的に学習に取り組む態度」では、80%を下回っている。	基礎・基本は定着している児童が多い。活用は80%を下回っているため、読み取る力、話す力、聞く力を高められるよう読み取ったことや聞いたことを基に、自分の考えを文章に書き表す習慣を付ける必要がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。ただし、「かたち」、「とけい」については、他と比べると低く、課題がある。また、「ひきざん」については、「減法の式から適切な文章問題をつくる」問題において、目標値も低い、平均正答率が60%を下回っている。	全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は90%、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」は80%を上回っている。	基礎・基本は定着している児童が多い。しかし、計算問題と比べて、問題文と立式を関連付けて理解したり、説明したりすることに課題がある。具体物を活用した問題解決場面を多く取り入れることで、内容の理解を深めていく必要がある。

[様式2]

令和5年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。特に、「漢字を読む」については97%以上と平均正答率が高く、「話を聞きとる」「漢字を書く」「ことばの学習」「物語を読み取る」についても、85%以上と平均正答率が高い。一方で、「文章を書く」は、無解答が10%程度いる。	全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は88%、「思考・判断・表現」は80%を上回り、「主体的に学習に取り組む態度」は80%を下回っている。	「文章を書く」「主体的に学習に取り組む態度」の平均正答率が78%であることから、主体的に課題を読み取り、自分で考え、分かったことや考えたことを書き表す活動を、より丁寧に指導する必要がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容で目標値を上回っている。10000までの数や分数、たし算やひき算、かけ算などの「数と計算」領域においては、平均正答率が90%と高い。一方で、「図形」については、目標値を上回っているものの、他の内容に比べると平均正答率が低い。	全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は90%、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」は、80%を上回っている。しかしながら、知識面だけでなく、技能面で、注意不足等による誤答がある。	数の相対的な見方や計算など、「数と計算」領域の中で、思考を問う問題の正答率が高い。一方で、「図形」領域の中でも、知識・技能の正答率が低い。図形の性質を理解する学習を通じて、基本の定着を図る必要がある。

[様式2]

令和5年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。特に、「漢字を読む」「話を聞きとる」については、平均正答率が90%以上と高い傾向にあった。一方、「文章を書く」については、およそ2割が無回答であった。</p>	<p>全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は80%を上回っている。一方、「思考・判断・表現」は80%を下回り、「主体的に学習に取り組む態度」はおよそ70%であり、やや低かった。</p>	<p>「文章を書く」では、平均正答率を上回っているものの、無回答や類型外誤答が多い。「指定された長さで文章を書いている」は56.5%と低い。読み取る学習も大切だが、物語を想像する場面では、自分で文章でまとめる学習を取り入れ、自分の言葉で指定された字数で書く力を付けていく必要がある。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。特に、「わり算」「□を使った式」「表とぼうグラフ」については、平均正答率が90%以上と高い傾向にあった。一方、「かけ算」の平均正答率は75.4%、「長さ・重さ」の平均正答率は69.2%とやや低かった。</p>	<p>全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」は80%を上回っている。「思考・判断・表現」は80%を下回った。</p>	<p>「長さ・重さ」では、ミリがついた単位を1000倍するとミリが取れることの説明が56%、mとkmが混ざっている道のりを求めどちらが短い説明する問題が46%であった。身に付いた知識をもとに自分なりの言葉で説明する活動を通じて、思考・判断・表現する力を身に付けていく必要がある。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>ほとんどの内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「電気の通り道」については、目標値、区平均、全国平均を下回り、平均正答率がおよそ26%と低かった。「磁石のせいしつ」については、目標値、全国平均を下回りおよそ52%と低かった。</p>	<p>全ての観点で目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は72.8%、「思考・判断・表現」は61.5%であった。「主体的に学習に取り組む態度」は43.2%であり、目標値、区平均と比較すると1ポイント程度しか上回らず、低かった。</p>	<p>「知識・技能」では、磁石や方位磁針の性質や、電気の通り道の回路についての平均正答率が目標値を下回った。「思考・判断・表現」では、太陽の動きについて行った実験について正しい操作を説明する問題では目標値を10ポイント、事象から導線の長さや明かりのつき方の関係について仮説をたてる問題では6%目標値を下回った。確実に知識・技能を身に付けるとともに、自分の考えを説明する活動の重点化を図る必要がある。</p>

〔様式2〕

令和5年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「漢字を読む」については、98%と高い数値を示している。一方、「言葉の学習」と「文章を書く」については、80%を下回り、低い傾向にあった。</p>	<p>全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」は80%を上回った。「主体的に取り組む態度」がおよそ70%であり、他の観点と比べると低くなっている。</p>	<p>内容と観点の両面において「書くこと」がおよそ75%であり、苦手な児童が多い傾向にある。授業等において一定の条件を踏まえて、自分の考えを書く活動を重点的に取り入れる必要がある。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「先人の働き」については、目標値が低い問題であってもおよそ50%であり、低い傾向にあった。さらに、資料をもとに記述する問題については、およそ4割の児童が無回答であった。</p>	<p>全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は70%を上回っている。「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」は70%を下回っている。</p>	<p>内容と観点の両面から目標値、区平均、全国平均を上回っている。一方で、一人一人の正答率にばらつきがあるため、個別支援・指導をさらに充実させ、全ての児童に基礎・基本の定着を図る必要がある。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「億と兆・がい数の表し方」「面積」については、正答率が70%を下回っている。</p>	<p>全ての観点で、目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。「知識・技能」は80%を上回っている。「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」はおよそ75%であった。</p>	<p>内容別も観点別も、目標値、区平均、全国平均を上回っている。どれも高い数値であるが、「面積」は、およそ70%であり、他に比べて低い傾向である。また、「面積」の記述問題では、無記入・無回答の児童が2割程度いたため、自分の考えを具体的に書く活動を重点的に取り入れる必要がある。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>ほとんど内容で、目標値、区平均、全国平均を超えている。その中で、「1年間の動物のようす」「天気の様子と気温」については、目標値、全国平均を下回っている。</p>	<p>全ての観点で、目標値、区平均正答率、全国平均正答率を上回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」はおよそ75%であった。特に「思考・判断・表現」は、目標値等を大きく上回った。「主体的に学習に取り組む態度」はおよそ55%であった。</p>	<p>内容別の正答率を見ると、目標値等を大きく上回るものとわずかながら下回るものがあり、学習の定着が内容によって差があった。また、この結果が「主体的に学習に取り組む態度」と関連しているため、自ら問いをもち、解決する学習をさらに充実させる必要がある。</p>

[様式2]

令和5年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。ただし、「文章を書く」については、他の内容に比べると正答率がおよそ60%であり、およそ1割の児童が無回答であった。	全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。ただ、「知識・技能」は77%「思考・判断・表現」は75%であった。「主体的に取り組む態度」は65%であり、他の観点と比べると低かった。	内容と観点別において、目標値や他の平均値よりも高い結果であった。しかし、言語文化に関する分野や文章を書く内容が比較的弱い傾向にあるため、自分の考えをまとめて表現する活動をより充実させる必要がある。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
ほとんどの内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「日本の水産業」については、目標値、全国平均を下回った。また、正答率が70%を下回っている内容が複数あるため、内容によって学習の定着にばらつきがある。	全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」「思考・判断・表現」は75%であり、「主体的に学習に取り組む態度」は70%であった。	栽培漁業の利点について資料から考える問題や中小工場への理解を問われる問題の誤答が多く、課題が見られる。また、正答率の分布から80~90%の児童と50~60%の児童がいるため、一人一人に学習内容が身に付けられるよう、個別支援を充実させる必要がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「整数のなかま分け」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」については、正答率が70%を下回っている。	全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は85%と高い一方で「思考・判断・表現」は70%、「主体的に学習に取り組む態度」は65%であり、観点によって差があった。	内容別と観点別で、目標値等を上回った。しかし、内容と観点を関連付けると「データの活用」の領域については、およそ65%と他領域に比べ、低い傾向にある。グラフ等を読み取り、論理立てて説明する力を身に付けられるようにする必要がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全ての内容で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。しかし、「植物の発芽と成長」「ふりこのきまり」「けんび鏡の使い方」については、正答率が50%前後であったため、内容によって定着のばらつきがある。	全ての観点で、目標値、区平均、全国平均を上回っている。「知識・技能」は73%、「主体的に学習に取り組む態度」は68%、「思考・判断・表現」は61%と全体として低い傾向にあった。	学習内容が知識・技能として身に付き、基礎・基本については定着している児童が多い。しかし、「思考・判断・表現」の項目が低いこと、活用力を問う問題の正答率が低いこと、学習したことをもとに自分の言葉で説明や表現する力を身に付ける必要がある。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立滝野川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	ひらがなは、概ね読み書きができるようになったが、筆順や字形を整えて書く力や「は、を、へ」や拗音・促音について、理解して適切に表現する力を身に付ける学習の充実が必要である。さらに、物語文については、叙述に即して読み取り、内容を適切に捉える力を身に付ける学習を丁寧に行う必要がある。	授業や家庭学習を通して、筆順や字形を意識して文字を書けるようにする。文章を書く活動を通して、「は、を、へ」の使い方を確認したり、プリントを使って拗音・促音の表記を繰り返し復習したりする。物語文や説明文を叙述に即して読み取れるように、サイドラインを引いたり、考えたことを話し合ったりする。	短い話を聞き取って書く活動を継続的に行うことにより、集中して聞き、正しい表記を意識して書けるようにする。家庭学習で音読の反復練習を引き続き行い、文字を読むことに慣れるとともに、文章の内容を理解できるようにする。NIEたいむを活用して簡単な感想を書けるようにする。
2年	漢字や言葉の基礎的な力は身に付いていると考えられる。引き続き、授業と家庭学習を関連付けた学びを通じて定着させる。活用については、基礎・基本に比べて80%を下回っているため、問題文を丁寧に読み取り、適切に理解しているか確認する場面設定が必要である。	自分の考えを文章に書き表したり、物語文や説明文を読み取る際に大事なところにサイドラインを引き、文章と自分の考えを関連付けながら、言葉でまとめる場面を設定する。また、自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりすることで、伝え合うことの楽しさを感じられる授業展開を行う。	毎週書いている日記、NIEたいむ等の指導と関連付けて、今後も継続して行っていく。特にNIEたいむでは、小学生新聞を活用し、記事を読んで分かったことや感じたことを書けるようにする。さらに、友達の選んだ記事や書いたことを読み合うなど、交流する機会を増やす。
3年	説明文の内容を読み取る力はあるが、情報を整理してまとめる力は不十分である。ワークシートに沿って言葉を当てはめる学習だけでなく、自分で考えを記述する力を伸ばす必要がある。書く力をさらに伸ばすために、報告文を書く单元などで丁寧に指導する必要がある。	説明文の発展として、自分で調べたことを記述する活動を行う際には、情報の整理の仕方から丁寧に指導する。国語の書く単元の学習だけでなく、教科横断的な視点から社会科や総合的な学習の時間で取材したことを生かして取り組む場合においても、目的をはっきりさせて分かりやすい文章が書けるように指導する。	毎週取り組んでいる日記と関連付けて、伝えたいことの中心を明らかにし、読み手に分かるように順序や表現を工夫するように指導を重ねる。NIEたいむでは、新聞の記事にサイドラインを引いて正しく読み取らせ、資料から得た情報と関係付けて分かったことをまとめるように指導し、文章を書く力を育てていく。
4年	「言葉の学習」「物語の内容を読み取る」については、他の内容と比べて正答率が低かった。物語文を読み解く際には、場面の様子や登場人物の心情について、自分で記述する学習を設定する必要がある。また、言語单元についても基礎・基本の定着を図る場面を設定する必要がある。	物語文を叙述に即して読み取ることができるように、大事な言葉にサイドラインを引く習慣を身に付けさせる。また、場面や心情の変化について、根拠となる文章と関連付けて説明する学習活動を取り入れる。さらに、読むことの学習指導において、主語と述語の関係を確認する時間を設定する。	NIEたいむと関連付けて、新聞記事から読み取った内容を要約する活動を行い、文章中の大事な言葉や文を見つけ出し、内容を理解してまとめる力を身に付けさせていく。また、国語の学習や家庭学習で語句の意味調べを行い、語彙力を高められるようにする。
5年	内容や観点において目標、区平均、全国平均を上回っているため、必要な学力はおおむね身に付いている。しかし、言葉の学習「連用修飾語の理解」に関する問題では9割の児童が誤答をしているため、主語と述語を明らかにしながら、適切な文章を表現する場面を設定する必要がある。	文章の読み取りや書く場面において、正確に自分の考えを表現できるよう主語と述語の関係を理解しているか、確認しながら学習をすすめていく。また、主語と述語の関係については、基本的な学習内容を再確認するため、プリント等を活用した問題演習などに取り組み、基礎・基本を改めて定着できるようにする。	NIEたいむと関連付けて、国語に必要な語彙力や読む力を引き続き伸ばしていくようにする。また、新聞記事の要約や、記事を活用した文章構成の分析、毎月の学級新聞の作成など、国語に限らず必要な読む力・書く力の育成を目指す。
6年	内容や観点において目標、区平均、全国平均を上回っているため、必要な学力はおおむね身に付いている。しかし、言語領域や説明文領域については、他と比べると低いため、自分の考えを論理的に説明する文章を書く場面を設定する必要がある。	文章を読み取る際に、情報と情報の関係について理解するために情報を整理する力を身に付ける必要がある。また、資料から事実を読み取ることを苦手としている児童も一定数いることから、説明文の読み取りの際に、指示語や単語のつながりを明らかにしながら、文章や資料から適切な情報を選び取れるようにしていく。	NIEたいむや読書の活動と関連付けて、語彙力や言語感覚を高めていけるようにする。活動を通じて、分かりやすく伝えるために、どのような言葉を選ぶかを学ばせていく。また、説明文を適切に読み取る力の素地として、NIEたいむで多くの新聞記事に触れさせることによって文章の構成の仕方や読み方を学ばせる。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立滝野川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	資料から必要な情報を読み取ったり、実際の見学や体験的活動を通して調べたことを、分かりやすくまとめたりする力を身に付ける必要がある。学習に合った資料を充実させ、問題と資料を照らして自分の考えを表現する授業展開が必要である。	問題解決型の学習を基本とし、様々な角度から考えることができるよう、効果的に資料を提示する。資料の見方、考え方について基本的なことを指導し、社会的事象と関連付けて考えられるようにする。また、地図記号や方位などの知識を身に付けるために継続的に指導していく。	児童相互の発表の場を設け、友達の資料の生かし方やまとめ方の工夫を知り、表現方法を増やしていく。また、単元や活動によってまとめ方が多様であることを示し、表現の技能を高めていく。また、NIEたいむと関連付けて、自分たちの生活と社会の出来事が密接に関係していることに気付かせる。
4年	資料を読み取り、気付いたことを書く活動に意欲的に取り組むが、気付いたことと社会的事象を関連付けて考え、説明する力を身に付ける必要がある。単元の目標を達成するために、資料の活用の仕方や資料に基づいて自分の考えを説明するなどの授業の展開を工夫する必要がある。	教科書の資料だけでなく、きたコンを活用して資料を探したり、複数の資料を比較したりしながら、分かったことを整理して書く活動を充実する。また、学び合いの場面をより充実させ、個々の気付きを共有し、話し合っ、考えを深められるようにする。さらに、学習したことと自己の生活との関わりについて考える活動を設定する。	NIEたいむや日直の新聞紹介等と関連付けて、社会的事象への興味・関心を高めるようにする。また、単元の学習と関連のある自主学習のテーマを紹介し、発展的な事柄を調べたり、自分の家庭、地域や社会で実際に行われていることを確かめたりして、主体的に学ぶ力を育てる。
5年	内容や観点で、目標、区平均、全国平均を上回っているため、必要な学力は、おおむね身に付いている。ただし、国語、算数と比べると「主体的に学習に取り組む態度」が低く、授業において課題解決に向けて見通しをもたせ、粘り強く取り組ませていく必要がある。	主体的な学びにつながるように、社会的事象と自分の生活との関連について深く考える場面を単元の導入や授業の終末に設定する。その際には、積極的に新聞を活用し、変化していく社会情勢などについても触れられるようにする。	調べ学習の際には、グループを作って共に学習を進めたり、情報を交流したりする活動を行い、苦手な児童にとって学習の手がかりとなるようにする。また、分かったことを新聞等にまとめ、他者に発信することで、言葉や資料を精選する力を高めるとともに、別の課題に気付く場面を設定する。
6年	内容や観点で、目標、区平均、全国平均を上回っているため、必要な学力は、おおむね身に付いている。今後も複数の資料を比較して読み取ったり、活用したりする活動を授業の中で多く設定していく。	グラフや資料を基に必要な情報を適切に読み取ることができるよう、改めて授業で時間を設定する。また、グラフや表から読み取れる事実だけではなく、時間や空間の違いによって生じた変化について、社会的事象と関連付けて思考を働かせられるようにする。	教科書を中心に、本、新聞やインターネットなどを活用し、多くの情報から必要な情報を選択する力を高めていく。また、日常的に社会的事象に興味・関心をもたせ、自分の生活とどのように関わっているかの意識付けを行う。さらに、学習した内容をノートにまとめる活動を取り入れ、知識の定着や思考を深める機会を増やす。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立滝野川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	問題に取り組む場面において、絵も参考にしながら場面を理解しようと、興味をもって意欲的に学習に取り組んでいる。数を数えることはできるが、数の合成分解や10までの数のたし算・ひき算の計算では、即答することが難しい児童がいる。また、文章問題の意味を理解し、自分で理由を明確にしながら演算決定して、立式する力を身に付けられるよう重点的に指導を行う必要がある。	具体物や半具体物の操作を通して、式の意味や計算の仕方を理解できるようにする。数の合成分解やたし算・ひき算の反復練習を行い、計算技能を定着させる。文章問題では「分かっていること」「求めること」に下線を引き、場面と問いを明らかにして、把握できるようにする。児童同士の学び合いや、問題解決型の学習を通して、問題を理解する力、説明する力を育てる。	問題解決場面では、多様な方法を考えるようにする。自力解決が難しい児童は、友達の考えを理解し、ノートに書き写していくことで次回の課題につなげていけるようにする。計算カードやプリントなどの反復練習を継続して取り組み、計算技能を向上させる。学力パワーアップ講師を活用し、個に応じた支援を行う。
2年	計算等の基礎的な力は身に付いている。しかし、長い問題文を読み取って立式したり、必要な情報を読み取って答えを求めたりすることに課題がある。また、図形では、立体の面を写し取ってかいた絵を見て、使われていない形を選ぶ問題の誤答が多い。立体の面の形を意識させ、表現する活動をさらに設定する必要がある。	文章問題を基に読み取ったことを図や言葉で表現する活動を通して、場面を把握する力を身に付けていく。また、立式を基に自分で文章問題をつくる活動をさらに多く設定する。図形では、具体物等を実際に扱いながら、立体的に図形を想像する力を身に付けられるようにする。	計算技能が確実に身に付くよう、計算カードなどで反復練習する。図形、時計の定義などは、学校生活の中でも折りに触れ繰り返し確認する。文章問題では読み取る力を育てるために、分かっていること、問われていることを整理し、問題場面を図や言葉で表現する活動を取り入れる。
3年	「データの活用」領域は正答率97%以上と高く、グラフの見方や活用の仕方が十分に定着している。一方で、はこの形、三角形と四角形などの「図形の領域」においては、長方形の縦と横の長さの関係、頂点という用語の理解、面の数や向かい合う面の特性などの理解が不十分であるため、身に付ける知識を確認する場面が必要である。	辺の位置関係に基づいた作図においては、長方形の性質が向かい合う辺の長さが等しいこと、角が直角であることを理解させる。また、立体図形として、箱の形の面の数や向かい合う面について、箱の実物を用いて観察させ、体験的に理解させていく。	少人数指導を通して、基礎を学ぶ児童には操作的活動を多く取り入れ、体感的に学習させる。発展的な学習に取り組む児童には、辺や頂点、角など図形の構成要素に着目した理解を深めさせ、箱の形を作るためには面はどのように並ぶかなど、展開図につながる内容を考えさせたりする。
4年	整数・小数の相対的な大きさの理解が不十分であり、単位の換算もつまずきが多い。絵、図、位取り表や数直線などを用いて、数の関係を見える化するとともに、児童がそれらを活用できるようにする。また、考え方を説明する問題が苦手な傾向が見られる。理由を説明するために文章で記述する経験を重ねる必要がある。	数のしくみや単位の変換について、改めて復習する時間を設定する。また、自分の考えを図、表、数直線、言葉や式など多様な方法で表現したり、教科書や友達のよりよい解決方法や分かりやすい説明の仕方を学び合い、書き写したりする活動を多く設定する。	少人数指導を通して、基礎を学ぶ児童には、東京ベーシックドリル、家庭学習などで、復習の機会を設定し、反復学習を通して基礎・基本の定着を図る。また、発展的な学習として新聞を活用し、学習内容が実際の社会と関わっている場面を捉え、関心を高めるとともに、その意味や有効性を実感できるようにする。
5年	内容や観点で、目標、区平均、全国平均を上回っているため、必要な学力は、おおむね身に付いている。問題別に見ると、「がい数の表し方」「小数のしくみ」が目標値と同程度の正答率であり、他と比べると、定着度が低い傾向がある。小数点や位取りの関係と数の大きさを正確に捉えられるよう繰り返し指導を行う必要がある。	小数やがい数など、数のしくみや数量についての改めて理解するために、プリント等で問題演習を行う。また、問題文を基に立式する際には、図や数直線と文章を用いて表現する活動を充実させ、互いの考えを交流する時間を多く設定する。	少人数指導を通して、基礎を学ぶ児童は、10人程度の少人数で毎時間の授業を展開していく。基礎基本の定着に向けて、反復学習も同時に進めていく。発展的な学習に取り組む児童には問題解決型の学習を継続し、児童が主となり、より多くの解決方法を出し合いながら検討し、互いに学び合う時間を多く設定していく。
6年	内容や観点で、目標、区平均、全国平均を上回っているため、必要な学力は、おおむね身に付いている。「データの活用」の領域が他と比べると苦手な傾向があり、「割合」についても誤答が多い。求められている量について適切に理解し、立式の根拠を明らかにする活動をさらに取り入れる必要がある。	「主体的に学習に取り組む態度」の力を伸ばすために、問題解決型の学習をすすめ、試行錯誤しながら解決を目指していけるようにする。友達同士で解決方法を検討したり、きたコンを用いて互いの考えを共有したりするなどの工夫を行う。	少人数指導を通し、基礎を学ぶ児童に対しては具体物などを用いた指導やきたコンを活用した反復学習を行い、丁寧に基礎基本の定着を図る。発展的な学習に取り組む児童に対しては、問題解決型の学習を継続し、児童の意見交流を基によりよい考えを導き出す対話型の授業を行う。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立滝野川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	観察・実験において、関心・意欲をもって取り組んでいるが、観察・実験の意図を正しく理解したり、差異点や共通点を見出すために条件を変えることの意味を理解したりすることに課題がある。また、観察・実験の結果から結論とすることにも課題が見られる。課題解決の見通しをもたせるとともに、活動の意図を明らかにする場面を設定する必要がある。	仮説を立てさせる際に、どのような観察・実験であれば検証できるかを考える時間を十分にとる。観察・実験方法を考える際には、比較するためにどのように条件を変えればいいのかを明らかにする。結果の考察の場面では、仮説との差異を明らかにし、分かったこと、これから更に調べたいことを明らかにさせる。	植物や動物の育ち方を学ぶ際には、時間の経過と変化を関連付けるとともに、植物と動物の共通点や相違点を話し合わせ、知識が身に付けられるようにする。エネルギー領域においては、身の回りの事象と関連付けて示すことにより、身に付いた知識や思考が生活の中で生きるようにする。
4年	知識・技能の正答率が72%と高くはなかったことから、実験や観察の結果から分かったことを確実に導き出せるよう指導する必要がある。また、実験方法や結果の理由を明確に説明する力を身に付けるために、自分の考えを記述する指導を丁寧に行う必要がある。	学習問題に対する仮説を立てる際に、生活体験や既習事項を根拠として理由を書くようにする。また、実験や観察後には、学習問題や仮説と照らし合わせ、結論を明らかにする。さらに、身に付いた知識を基に生活と関連付けながら、友達と話し合って考えを深めたり、自分の考えを記述したりする時間を設定する。	教科書のコラムや新聞を活用し、学習したことと身近にある科学的な事象を照らし合わせ、学習内容がどのように活用されているかを考えさせる。また、家庭学習できたコンのイーボードやスタディーサプリを使った学習を促し、基礎・基本の定着を図る。さらに、自主学習で取り組むテーマを紹介し、主体的に学ぶ力を育てる。
5年	「1年間の動物のようす」「天気のようにと気温」の内容について、他の内容に比べ定着度が低く、目標、全国平均を下回っている。大切な言葉を理解していても、問題と結び付けて自分の考えとして説明する力を身に付けるために、結果から結論を適切に関連付けて表現する活動をさらに充実させる必要がある。	一定の期間の観察・実験が必要な単元については、粘り強く取り組めるように日常的に時間を確保できるようにする。また、記録を常時掲示するなど結果をはっきり示すことや、グループで観察するなどして、興味・関心を継続させていく。さらに、結果から自分の言葉を生かして結論を導くことができるようにする。	きたコンやプリントを活用し、基本の練習問題に繰り返し取り組む時間を設定し、基礎・基本の定着を図る。また、発展的な学習として学習した内容を基に自分の生活と関連付けて考えを記述する活動を取り入れていく。
6年	内容や観点で、目標、区平均、全国平均を上回っているため必要な力はおおむね身に付いている。しかし、「けんび鏡の使い方」が他の内容に比べると低く、十分な知識・技能が身に付いていないため、実験・観察に必要な道具等の扱い方を理解し、実際に操作する活動のさらなる充実が必要である。	問題解決的な思考の流れを板書で整理し、学習活動を振り返りながら知識・技能が定着するようにする。また、実験内容だけに重点を置かず、児童が自ら問題を見付け、解決するために児童が想定した実験を行う。さらに、学習意欲の向上・持続させるために、事象の提示、教材提示や実験器具の工夫や活用を行っていく。	理科支援員と連携し、児童の日常体験や経験と結びつくような導入の工夫を行い、児童の関心を高める工夫を行う。また、発展的な学習として、理科支援員や大学などと連携し、発展的な実験や事象に触れさせ、さらに関心を高められるようにする。